

第38週の発生動向 (2004/9/13~2004/9/19)

- 1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、前週に比べ12人の増加となったことから注意が必要です。特に青森保健所管内で増加が目立っています。
- 2 ヘルパンギーナについては、全体として減少傾向にありますが、むつ保健所管内では**警報**が出ており、青森保健所管内での報告数も多いことから、引き続き注意が必要です。

第38週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱			3	0.30									3	0.07	-1
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	2.00	8	0.80					4	0.67	4	1.00	32	0.76	12
(62) 感染性胃腸炎	14	1.75	7	0.70	1	0.11	1	0.20	5	0.83	10	2.50	38	0.90	-28
(63) 水痘			1	0.10	3	0.33	1	0.20	4	0.67			9	0.21	-9
(64) 手足口病									12	2.00			12	0.29	-2
(65) 伝染性紅斑	1	0.13			1	0.11			1	0.17			3	0.07	-2
(66) 突発性発疹	4	0.50	5	0.50	9	1.00	2	0.40	3	0.50	3	0.75	26	0.62	6
(67) 百日咳															-1
(68) 風疹	1	0.13			1	0.11							3	0.07	3
(69) ヘルパンギーナ	32	4.00	13	1.30	2	0.22	4	0.80	1	0.17	12	3.00	64	1.52	-31
(70) 麻疹(成人を除く)															
(71) 流行性耳下腺炎	5	0.63	4	0.40	9	1.00	1	0.20			1	0.25	20	0.48	3
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50											1	0.09	±0

	定点数			
	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報、■ は警報です。 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

- (14) 腸管出血性大腸菌感染症 (三類全数把握疾患) 青森保健所管内 (O26: 1人) 1人 (16年計 23人)
- (59) RSウイルス感染症 (五類定点把握疾患)  
弘前保健所管内: 4人, 五所川原保健所管内: 1人 合計5人 (16年計 43人)
- (82) マイコプラズマ肺炎 (五類定点把握疾患) 八戸保健所管内 2人 (16年計 85人)

感染症の窓 高病原性鳥インフルエンザ (Highly Pathogenic Avian Influenza)

**病原体は、**高病原性鳥インフルエンザウイルスA (H5N1)型等です。  
**ヒトに感染した場合、**潜伏期間は1~3日です。  
症状は突然の高熱、咳などの呼吸器症状の他、重篤な肺炎等です。  
**予防** 鳥類(ニワトリ等)に限らず**動物を触った後は手を洗い、うがい**をすることが大切です。



**症状** 鶏、七面鳥、うずら等が感染すると全身症状を引き起こし、神経症状、呼吸器症状、下痢、食欲減退等が現れます。

**わが国では**  
A(H5N1)型は1925年以来、発生はありませんでしたが、2004年に山口県、大分県、京都府でも同型が確認されました(カラス、チャボ等)。